



下田市議会議長
竹内 清二

謹賀新年



新たな年明けを迎えるにあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。市民の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日頃より市政ならびに議会の運営にあたり、ご理解とご協力を賜っておりますことに重ねて御礼申し上げます。

昨年は大阪北部地震、西日本豪雨災害、北海道胆振東部地震、例年と異なる台風進路による災害等、大規模な災害が日本中頻繁に発生し、下田市においても改めて防災対策の重要性を再認識する一年でした。

昨年末、下田市議会の2つの常任委員会はそれぞれ、岩手県陸前高田市他（東日本大震災被災地）の復興状況について、高知県黒潮町（津波防災先進地）の避難整備状況についてを視察いたしました。各々に共通したことは、行政が地域住民が抱える不安や脅威を細かく把握し、防災対策に繋げることにより、官民一体となった対策を強力に推進していることでした。東日本大震災から8年が経過しようとする中、下田市でも徐々に津波避難整備等が進んでおりますが、市民の皆様が抱える漠然とした不安の払拭にはまだまだ至っていないと推察いたします。発生が懸念される南海トラフ地震や局地的な豪雨災害等、あらゆる災害に対し、皆様安心して日常を過ごすことができるよう、ハード・ソフトの面で万全の体制を整えるよう議会としても強く推進してまいります。また、その一環でもある安全な新庁舎整備にあたっては、行政当局とともに、市民の皆様が有益な整備の遂行と一日も早い竣工を目指してまいります。

市の経済において重視すべき観光交流客数の入込み状況は、静岡県全体では特に環富士山地域を中心に増え、該当地の経済発展に大きく貢献しております。一

方で天城以南の下田賀茂地域への流入は伸び悩み、市民の皆様が景気回復を実感できる環境にはまだまだ程遠いものと推察いたします。

この現状において、当地域の観光振興に必須とされる今後の課題としては、「交通インフラの改善」と「旧来型観光からの転換」が挙げられております。交通インフラの整備にあたっては、本年1月26日に天城湯ヶ島ICまでの5.1kmが新たに供用開始される伊豆縦貫自動車道の南下は、当地域へのアクセスが更に至便となります。議会においては、このストック効果を最大限生かすよう誘客事業を推進するとともに、今後も引き続き議会一体となって、下田市までの全線開通が一日でも早く実現されるよう関係省庁等への陳情要望活動を進めてまいります。

また、旧来型観光からの転換にあたっては、本年4月から3か月間行われる国内最大級の観光プロモーション事業「静岡デスティネーションキャンペーン」を契機に、地域の魅力の磨き上げや、着地型観光商品の開発などが展開される運びです。比類なき下田の魅力を内外多くの皆様に周知できる契機を議会といたしまして全力で推進してまいります。官民挙げてこの事業を成功させましょう。

本年が下田のさらなる飛躍の年となるために、下田市議会の更なる奮励をお誓い申し上げますとともに、市民の皆様にとって幸多き一年でありますことをご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

新年を寿ぎ、謹んでご祝詞を申し上げます。市民の皆様におかれましては、お健やかに新たな年をお迎えになられたこととご拝察申し上げます。

私、市長に就任してから3回目の新年を迎えました。未だ道半ばではございますが、着実に市政が運営されているものと自負しております。これも偏に市民の皆様への市政に対する深いご理解と強力なご協力の賜であり、深甚なる感謝を申し上げます。

昨年4月、伊豆半島は、ユネスコ世界ジオパークに認定されました。地質遺産の価値と本市を含む伊豆半島15市町民の活動が国際的に高く評価された結果です。市内には、海底火山にその起源を持つ天然の地形、柱状節理、斜交層理や伊豆石等多くのジオサイトが点在しています。世界ジオパークに認定されたことにより、学問的な価値はもとより、経済的な利用価値も向上しました。

伊豆縦貫自動車道路に関しては、昨年5月に「河津トンネル（仮称）」起工式が行われ、下田河津道路のII期工事区間の工事の進捗が顕著に確認されるようになりました。現在はこの区間を通過するのに約16分かかります。将来トンネルが完成すると約2分に短縮されます。その整備効果は大きいものがあります。また、天城北道路を河津桜まつり前に開通していただくよう、各関係機関に要望してまいりましたが、年明け早々の1月26日に開通式が予定されています。大願成就、快哉を叫びたい心境でございます。本年も倍旧の要望活動に心血を注ぐ所存でございます。

国際交流に関しては、昨年は、ニューポート市と姉妹都市の提携60周年の節目を迎え、両市で記念式典を行い、下田市の式典では駐日アメリカ大使館からハガティ大使ご臨席の下、60年間培ってきた固い絆を確認しました。

また下田は、1855年に「日露和親条約」が締結された地であり、日露外交発祥の港でもあります。玉泉寺には、安政の大津波で被災したロシア船のディアナ号とその後に来航したアスコルド号の乗組員の墓があります。日口友好交流事業として、昨年11月には駐日ロシア公使をお迎えし、乗組員を追悼する慰霊祭と日口交流の歴史を学ぶ講演会を開催しました。下田は、日米と日露の外交関係の礎が築かれた世界的にも稀有な港であり、その歴史的遺産を将来に亘って継承すべき使命を負っていることを我々市民の誇りとして、実行していかなければならないと思っております。

さらに、歴史まちづくり法に基づく「下田市歴史的風致維持向上計画」が国の認定を受けました。この法律は歴史的価値の高い建造物や、良好な市街地環境を維持向上させることを目的とした法律で、県内では4か所目の認定となります。本市が維持向上すべき歴史



下田市長
福井 祐輔

的風致として「湊町の下田八幡神社例大祭」「黒船祭」「稲稗地域の祭礼」「天草漁をはじめとする磯浜の営み」「蓮台寺温泉」の5つを掲げております。これまで守り育んできた歴史文化資源を維持向上させて、地域に対する誇りの醸成と地域の活性化に繋げてまいります。

中学校再編に関しては、校名の変更を12月定例会に諮り、「下田市立下田中学校」の校名が可決されました。この校名に因む、教育理念の策定、制服の制定、校歌の作詞・作曲等が行われ、2022年4月の開校に向け、校舎等の環境整備を併行して、事業を推進して参る所存であります。

今年の4月から6月には、JR東日本と静岡県がタイアップしたデスティネーションキャンペーンが行われます。伊豆半島においては、黒船祭とあじさい祭りがキャンペーン対象となっております。この機会を有効に利用し、リピーターとなっていただくよう、観光客の誘致に最大限努力をしなければなりません。

加えて、新庁舎建設事業に関しては、「災害に強く、全ての市民にとって使いやすい、経済的で効率的な庁舎」の実現に向け、2021年5月の開庁を目指し、秋頃には建設工事に着手する計画となっております。

本年も、虚心坦懐、公論傾聴、先見洞察、熟慮断行を座右の銘とし、観光業の振興を主体とした経済活性化対策、人口減対策、防災対策の3本柱を主軸として、明るい将来に向けこれまで蒔いてきた種が芽を出し、大きく育っていく年になるよう、全力を注ぐ覚悟でございます。市民の皆様への絶大なるご協力を切にお願いいたします。

結びに、市民の皆様にとって、本年も幸多い年となりますよう、心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。